実習前指導における学校・博物館のホームページの活用

園　屋　高　志

（1999年10月7日　受理）

Using Web Site of School and Museum in Guidance for Teaching Practice

Takashi SONOYA

1．研究の目的

周知のように教員免許取得希望者は教育実習を行うわけであるが，それを行う以前に学校の様子を知っておくことは，学校という組織を理解する意味で，何らかの形で役立つだけではなく，実習への意欲を高める上で意義あることと筆者は考える。この場合の学校とは，単に実習校だけではなく，それ以外の学校も指している。

筆者の所属する教育学部においては，以前から行われている通常の教育実習（3年次後期）に加えて，新たに「参加観察実習」（2年次後期）が昨年度入学生から導入されたが，これはできるだけ早いうちに学校の様子を観察させ，学校という組織を理解させるのに役立てると共に，通常の教育実習への意欲，あるいは教師になることへの意欲を高めるというねらいがある。

さらに，このような制度上の試みに加えて，平常行われている授業の中でも学校の様子を紹介したり，例示したりすることで，学校への理解を深めたり意欲を高めたりする効果があるものと思われる。その場合，その方法としては，実際に授業を参観させたり，ビデオで撮った授業を見せたり，文献で授業を紹介したりする，というような方法がある。しかし，実際の授業を参観させるのは，その学校の都合と大学の授業の都合が一致しないとできないし，ビデオや文献等の資料を用意するのには限りがある。

そこで，筆者はこれらの方法に加えて，既に公開されている学校のホームページを閲覧させることも一方法として有効なのではないかと考え，その実践を試みた。すなわち，実習校だけではなく，実習校以外の学校も含めてそのホームページを，授業の中で学生に閲覧させることを試みたわけである。

また，同様のことを博物館学芸員資格取得希望者についても試みた。すなわち，博物館実習の前に博物館（美術館等も含む）の様子をいろいろな方法で知っておくことは，意義あることと考え，実習予定の博物館だけでなく，実習館以外の博物館も含めてそのホームページを，授業の中で学生に閲覧させることを試みたわけである。

本研究は教育実習前や博物館実習前の指導の一つとしてこのようなことを実践し，その効果を明らかにすること，及びホームページが実習前指導に役立つためにはどのような内容が掲載されているとよいかを，調査によって明らかにすることを目的としている。また，後述するように本研究は，公開されている学校や博物館のホームページの有効利用の一方法の提案でもある。

以下，教育実習前指導の一つとしての，学校のホームページ閲覧の実践と，博物館実習前の指導の一つとしての，博物館のホームページ閲覧の実践とについて分けて述べ，その後両者を比較し，まとめを述べることにする。

2．学校のホームページ閲覧の実践

2-1　実践方法

(1) 対象者

鹿児島大学教育学部1年生のうち，筆者が担当している「情報活用基礎」の授業を受けている者。実施した日には受講者は40名であった。なお，筆者の授業を受けている者は，理科と社会の学生であるので，全員教員免許を取得する予定の学生である。

(2) 方法

上述の授業は，毎回共通教育用コンピュータ室において，一人1台でパソコンの演習をするもので，ホームページの閲覧方法は既に学習している。そこで，当該実施日（1回だけ）にこの実践の趣旨を説明し，約80分間自由に学校のホームページを閲覧させる方法をとった。ただし，閲覧しやすいように，鹿児島県，宮崎県，熊本県，その他の県の学校のホームページにリンクできるページをあらかじめ作成しておき(注1),ブラウザ起動時のホームページ（鹿児島大学）から，そこに順にリンクして行けるように設定しておいた。また，所定の「閲覧記録用紙」を配布し，見たホームページは学校名を記録し，さらにその学校またはホームページの特徴，感想，いい点などを記入させるようにした。これは，内容まできちんと見させるためである。そして閲覧後その効果を調べるために，アンケート調査を行った。

2-2　実践結果

(1) 閲覧したホームページの数

まず，この時間内に見たホームページの数は，以下のようになった。

小学校：平均2.2校，最大5校
中学校：平均0.9校，最大4校
高　校：平均0.3校，最大2校
その他：平均0.4校，最大2校（中・高一貫校，学園，外国人学校など）
全　体：平均3.7校，最大8校

筆者は見る学校数がもう少し多いことを予想していた。予想より少なかったのは，上述のように，

その学校またはホームページの特徴などを「閲覧記録用紙」に記入させるようにしたため，内容まできちんと見たためであろう。また，「なかなかつながらないホームページもあった」という感想があったので，そのことも影響していると思われる。なお，教育実習校の一つである鹿児島大学教育学部附属小学校・中学校を見た者は，11名であった。

(2) アンケート調査の結果

次に閲覧後のアンケート調査の結果を示す。

まず，質問A－1「今日のように，学校のホームページを見ることは，学校の様子を知る上で役立つと思いますか？」に対しては，図1のようになった。

同図のように，「とても役立つと思う」が48%であるが，「やや」（48%）を合わせると，ほとんどの学生に概ね役立ったと言える。

次に，質問A－2「学校のホームページを見てみて，今度はそこに実際に行ってみたいと思った学校が一つでもありましたか？」に対しては，「あった」が29人（73%），「なかった」が11人（28%）であった。ホームページの中には学生の関心を引くようなところがあったようである。

質問A－3では，「今日学校のホームページを見る前と，見た後を比べて，学校での教育実習を早くしてみたいと思うようになりましたか？」を問うてみた。その結果は，「早くしてみたいと思うようになった」が13人（33%），「変わらない」が27人（68%）で，「逆にしたくなくなった」は0であった。この質問が実習への意欲の高まりを直接示しているとは単純には言えないが，「早くしてみたいと思うようになった」13人の学生にはその傾向があるのではないだろうか。

さらに，質問A－4では，「今日の演習のように，ホームページによって学校の様子を知る場合，学校のホームページには，どんなことが載っていると役立つと思いますか？」と問うた。これは本実践のような目的に役立つホームページはどうあるべきかを探るためである。その結果として表1のようなことが列挙された。同表に示したように，広範囲にわたった回答が得られており，学校の

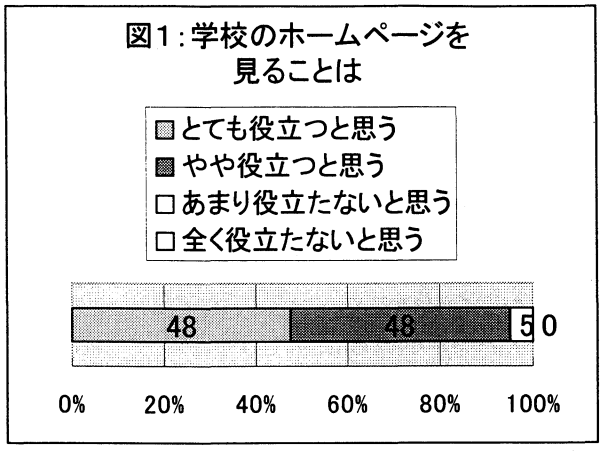


表1　学校のホームページに載っていると役立つ内容

学校の位置を示す地図，学校の風景写真
学校の全体図，学校の環境，施設
学校の歴史，その土地の風土や文化
生徒数，登下校時の写真
教育方針，校則，校旗，校章
学校特有の行事や習慣，学校独自の個性
学校が特に力を入れて取り組んでいること
教室の紹介，授業風景，クラス紹介
子供の作品集，部活動
生徒や先生の言葉，生徒一人一人の本音
子供たちの元気な様子，名物先生
学校で起きた事件とその解決法

ホームページ作成に参考になりそうである。

このことに関連して，日本の学校のホームページの実態にふれてみる。ホームページの内容を調査した市川・鈴木の研究[1]によると，「学校紹介」（概要，特色，教育方針等）を発信している学校は，小学校71％，中学校77％，高校89％と比較的多いが，「アナウンス」（案内，ニュース）は小学校39％，中学校36％，高校51％，「作品」（作品，教材資料）は小学校42％，中学校35％，高校26％で，いずれも学校紹介に比べると低い。また，学級や教科単位のレベルで発信している「クラス」（学級，教材）は，小学校39％，中学校32％，高校14％で，やはり学校紹介に比べると低い。実習前指導に活かすという観点からは，児童・生徒の作品や学級の様子がわかるような情報の発信が望まれる。

(3) 自由記述の感想

上述のアンケートで，「今日の演習について感想・意見など自由に書いてください」という質問をしたが，その回答として書かれたものの中から，以下に原文のまま示す。それぞれ①②・・が一人分である。

① 教師になりたいと思っている私にとっては，いろいろな学校を見ることができて，とても良かった。学校ごとにホームページの感じがいろいろ変わるのでおもしろかった。とても工夫してあるホームページもあってすごいなと思った。

② それぞれの学校に特色があり，表面だけかもしれないが，学校の様子を知るのに役立つと思った。また生徒自身でページを作り，そこでメールのやりとりなども行っていて，とても興味深かった。

③ できるだけ自分とは違う地域にある学校をみるように努めた。それぞれ，ホームページの作り方に学校の色みたいなものが出ていておもしろかった。早くたくさんの学校がホームページを知ってほしいと思う。

④ 県内だけに限らず他県の小・中学校の様子も知ることができたので，とても新鮮だった。

⑤ 今日はいろんな学校を見ることができてとても楽しかった。こういうのはいい経験になると思う。昔を思い出してしまった。でも母校がなかったのでくやしかった。

⑥ 一言で学校といっても，十の学校があれば十の学校があるように，一種の個性があるような気がした。

⑦ すごいユニークな学校があるなぁということがわかり役に立ったと思う。

⑧ いろんな学校のホームページを見て，それぞれ違った特色があることがわかった。

⑨ いろんな学校の特色が見れて良かった。

⑩ なかなかためになったと思う。自分も将来ホームページを作ろうと思った。

⑪ いろいろな学校にアクセスできてよかった。

⑫ これはけっこうためになると思います。

⑬ いろいろな学校のホームページを見て，それぞれの学校でいろんなことに取り組んでいること

が分かった。もっといろいろなホームページを見たいと思った。

⑭情報が少なすぎると思いました。

⑮学校のホームページを見ても，生徒が作っていないホームページが多数あり，なんだか，他の学校のホームページがあるから，とりあえず作りました…というホームページがあまりにも多すぎて，見る意味がないと思います。

このように，感想・意見の中には，⑭⑮のように否定的なものも見られたが，①～⑬のように，役立ったという感想・意見が多く見られ，また，各学校の個性や特色があることに気づいたものもあって，概ね好評だったと言える。

3．博物館のホームページ閲覧の実践

3-1　実践方法

(1) 対象者

鹿児島大学法文学部で筆者が担当している「視聴覚教育メディア論」の受講者。この授業は学芸員資格取得に必修となっているので，受講者はほとんど学芸員資格取得希望者である。実施した日は2週間にわたり2回で，どちらも受講者は39名であるが，欠席者がいるため受講者自体は少し異なっている。

(2) 方法

上述の授業は，ふだんは講義室で講義する形態であるが，実施日には前述の「情報活用基礎」で使用する共通教育用コンピュータ室で行い，一人1台で閲覧する形態をとった。ホームページの閲覧方法は既に学習している者とまだの者が混在するので，最初にその方法を説明してからとりかかった。そして，この実践の趣旨を説明した後，約80分間自由に博物館のホームページを閲覧させる方法をとった。この場合も閲覧しやすいように，いろいろな博物館のホームページにリンクできるページをあらかじめ作成しておき(注2),ブラウザ起動時のホームページ（鹿児島大学）から，そこに順にリンクして行けるように設定しておいた。

また前述の学校の場合と同様，所定の「閲覧記録用紙」を配布し，見たホームページは博物館名を記録し，さらにその博物館またはホームページの特徴，感想，いい点などを記入させ，内容まできちんと見させるようにした。そして閲覧後その効果を調べるために，アンケート調査を行った。

なお，前述のようにこの博物館の場合は，2週間にわたり2回実施したが，これは博物館のホームページはどこもかなり内容が多く，1回では少ない館数しか見られないことを予想したからである。ただし，受講者の中には学校のホームページに関心のある者もいるので，2回目は博物館だけではなく，学校のホームページも見ていいようにした。

3-2　実践結果

(1) 閲覧したホームページの数

この時間内に見た博物館のホームページの数は，以下のようになった。

1回目：平均4.6館，最大8館

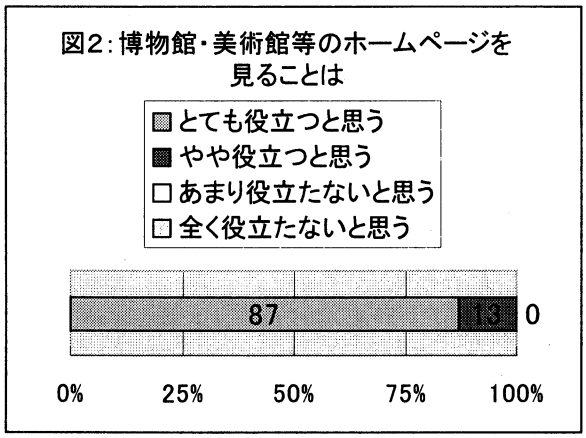
2回目：平均2.2館，最大5館

2回目の場合，前述のように学校のホームページも見てよいことにしたので，博物館数は1回目より少なくなっている。

(2) アンケート調査の結果

1回目閲覧後のアンケート調査の結果を示す。

まず，質問B－1「今日のように，博物館・美術館等のホームページを見ることは，博物館・美術館等の様子を知る上で役立つと思いますか？」に対しては，図2のようになった。



同図のように，「とても役立つと思う」が87％にのぼり，「やや」（13％）を合わせると，全員の学生に概ね役立ったと言える。

次に，質問B－2「博物館・美術館等のホームページを見てみて，今度はそこに実際に行ってみたいと思ったところが一つでもありましたか？」に対しては，「あった」が38人（97％），「なかった」が1人（3％）であった。ホームページの中には学生の関心を引くようなところがかなりあったようである。

また，質問B－3では，「今日博物館・美術館等のホームページを見る前と，見た後を比べて，博物館・美術館等での実習を早くしてみたいと思うようになりましたか？」を問うてみた。その結果は，「早くしてみたいと思うようになった」も，「変わらない」も共に19人（49％）で，「逆にしたくなくなった」は0，「もともとしないつもりである」が1人（3％）であった。前述の学校の場合と同様，この質問が実習への意欲の高まりを直接示しているとは単純には言えないが，「早くしてみたいと思うようになった」約半数の学生にはそれが示唆されると考える。

質問B－4は，「今日の演習のように，実際に訪問して様子を知るのではなく，ホームページによって様子を知る場合，博物館・美術館等のホームページには，どんなことが載っていると役立つと思いますか？　博物館の学芸員資格を取得する者としての立場から考えて，以下の中から，該当するものの（　）にいくつでも○をつけてください。」というものである。これは1回目の際に「どんなことが載っていると役立つと思うか」を自由記述で書かせ，それをもとに作成した項目を2回目の際に問うたものである。従って，質問B－1～B－3の回答者とは少し異なる回答者（39人）である。

この結果を表2に示したが，同表のように，本実践のような目的に役立つホームページはどうあるべきかを考えるのに役立つ。また，「学芸員・職員の募集案内」や「学芸員・職員の仕事内容の紹介」が上位にあるのも，学芸員資格取得希望者からみれば当然であろう。

表2　博物館のホームページに載っていると役立つ内容

数字は人数，（　）内は％で，多い順に並べてある。

31	(79) 外国の施設の場合，日本語の説明
29	(74) 施設の場所（地図も含む），交通手段など
27	(69) 利用案内（開館時間，休館日，入館料金など）
27	(69) 展示品の写真による紹介
26	(67) 学芸員・職員の募集案内
25	(64) 学芸員・職員の仕事内容の紹介
24	(62) 展示品の一覧
23	(59) 館内の様子がわかる図や写真
23	(59) 催し物のお知らせ
20	(51) 障害者のための利用案内
20	(51) 視聴覚メディア関係の設備
16	(41) 施設全体の写真
16	(41) 館内を実際に回っているように見える動画映像
16	(41) 博物館実習の様子
15	(38) 展示品の動画映像による紹介
15	(38) 学芸員・職員の研究論文・調査報告など
14	(36) 展示に関する裏話（舞台裏）
13	(33) 展示品の詳細な説明
12	(31) 学芸員・職員の紹介
6	(15) 館長のあいさつ
2	(5) その他
	…大変なこと・やってよかったと思うこと，展示会など過去にあったものまで紹介する

(3) 自由記述の感想

上述のアンケートで，「今日の演習について感想・意見など自由に書いてください」という質問をしたが，その回答として書かれたものの中から，以下に原文のまま示す。それぞれ①②・・が一人分である。

① 今日の演習は，自分にとってためになったと思う。博物館についてインターネットでここまで知ることができたとは驚いた。またアクセスしたいと思いました。

② 実際に美術館や博物館へ行く機会が少ないので，いろいろな施設の様子を知ることができてたいへんよかったと思う。東京などにある規模の大きい博物館の設備の充実ぶりは素晴らしいと思った。

③ 博物館・美術館の内部まで知ることができよかったと思う。インターネットを通じて実際に行ってみて，この資料はインターネットで見たなという感じを受けてみたいと思った。

④ 最初はインターネットで博物館や美術館を見るなんて，面白くなさそうだと思っていたけれど，実際に開いてみると，すごく面白かった。実際には行けないほど遠くにある博物館・美術館の様子を鹿児島にいながらにして知ることができるなんて改めてインターネットのすごさを感じた。またどの博物館・美術館も様々に趣向をこらしたホームページを作っており，大変おもしろかった。

⑤　たくさんの博物館のホームページを見たのは初めてで，大変楽しかったです。実際に行ってみたいと思う場所もあって，有意義な演習だったと思います。

⑥　博物館といえば歴史などそうゆうものがあるところだと思っていたが，様々な種類のものがあるということを知ってとても楽しかった。

⑦　いろんな種類の博物館・美術館があることを知った。自分の興味のある所もあって，行ってみたいと思った。

⑧　とてもおもしろかった。実際にいろいろな博物館へ行ってみたいと思った。あと自分だったらこんなホームページにしたいなぁというのも感じた。

⑨　博物館のホームページを見たのは初めてだったけど，けっこう工夫されていておもしろかった。いろいろな博物館をみていると，こんなのもあるんだ，と思うようなものまであって楽しかった。また機会があれば，今日見てない博物館のホームページを見てみたいと思った。

⑪　博物館などのホームページを見ることで，いろいろな博物館などの展示物を見ることができておもしろかった。行ってみたいところもあったので，また，他のホームページも見て，行きたいところを探してみたいと思った。

⑫　普段，あまり見る機会がなかったので，楽しく見ました。１つ１つの美術館や博物館がおもしろくてじっくりみました。

⑬　いろいろな博物館の事を知れてよかった。ホームページだけでも博物館の特徴を知ることができたと思う。

⑭　いろいろなところのいろいろな種類の博物館を見ることができてよかった。ホームページを見て，実際そこへ行きたくなったところもあった。とても楽しかった。博物館や美術館のホームページは初めてみたが，意外とおもしろかった。

⑮　このような博物館があったのだと発見することが多くて楽しかった。もっと色々な博物館を来週は見てみたい。

⑯　博物館と一言でいっても，その中身にはいろいろなものがあることを知った。

⑰　はっきり言って，今までにホームページを見たり，毎日の生活にＰＣを取り入れている人にとっては，あたりまえすぎて少々つまらなかったと思う。時間を半分にしてもよいと私は思いましたが。

以上のように，博物館のホームページを見ることは役立ったという趣旨の感想・意見が多かった。しかし，中には最後の⑰のような否定的なものもある。確かに，ふだんから博物館のホームページをよく見ている者にとってはそうかもしれないので，その場合「これから博物館で実習をする立場として」とか「将来博物館に勤めるという立場から見て」というように，ふだん見るのとは視点を変えて見るように指導しておくことが必要であると思われる。

表3　パソコンやホームページ閲覧の好み

1．とても好き　　2．やや好き
3．あまり好きでない　　4．全く好きでない

	質問項目		1	2	3	4
学校 40人	パソコンの操作	人	28	10	2	0
		%	70	25	5	0
	ホームページの閲覧	人	26	12	2	0
		%	65	30	5	0
博物館 39人	パソコンの操作	人	19	19	1	0
		%	49	49	3	0
	ホームページの閲覧	人	28	11	0	0
		%	72	28	0	0

4．二つの実践のまとめ

4－1　効果の比較

以上述べたように，これらの二つの実践では概ね筆者の意図したねらいが達成されたと考えているが，閲覧後の調査結果，たとえば質問A－1，B－1「ホームページを見ることが役立つと思うか」や，質問A－2，B－2「今度はそこに実際に行ってみたいと…」の結果からわかるように，どちらかといえば，後者の博物館のホームページ閲覧の方が効果が高いように思える。これは前述の自由記述の感想・意見からも感じとられる。これは以下の理由からであると考える。

学生にとって学校というのは，自分がこれまで過ごしてきただけあって，既によく知っている存在であるが，一方博物館はほとんどの学生にとっては，たまに行く程度であまり知らない存在であると思われる。それだけに，ホームページを通してでもいくつかの博物館を見られるのは，彼らにとって意義あることなのであろう。

また，このようにホームページ閲覧によって学校や博物館の様子を知ることの効果は，本人のパソコンの操作の好き嫌いや，ホームページを閲覧することの好き嫌いにもある程度依存することも考えられる。前述の調査では同時にそれらも調べたが，その結果は表3のようであった。

同表に示したように，ほとんどの学生がパソコンの操作とホームページの閲覧は，どちらも「とても好き」または「やや好き」である。このことが筆者の実践に好影響を及ぼしているものと思われる。逆に考えれば最近の学生はパソコンやホームページ閲覧に好意的な者が多いだけに，種々の場面でもっとホームページを活用することが望ましいと言える。

4－2　インターネットリテラシーの習得

先に自由記述の感想・意見を紹介したが，その中に，以下のような記述があった。a～eが学校のホームページを見て，f，gが博物館のホームページを見てのもので，それぞれが一人分の記述である。

a．こんなにも沢山の小学校や中学校がホームページを開いているとは思わなかった。自分が小学生のころはパソコンとかはさわったこともなかったので，今の小中学生がうらやましいと思った。

b．インターネット（特にブックマーク）のしくみがわかってよかった。次からもっとうまく使えると思う。

c．こんな取り組みをしているとは知らなかった。自分の母校も是非参加して欲しいと思う。

d．工夫してあるホームページもあってすごいなと思った。

e．楽しかった。パソコンを使うと，ボタン1つでほんとうにいろいろなところの情報が得られて，すごく便利だと思った。もっとうまく活用できるようにしたい。

f．とても楽しかったが，そのホームページによってかきかたやくわしさもちがうのも興味深かった。

g．とても楽しく学べた。現代科学はどんどん進歩してますます世界はせまくなってると思った。一人で扱えるようになりたい。

以上の記述は，学校や博物館の様子を知ることの意義というよりも，ホームページそのもの，またはインターネットそのものについての認識に関わることである。いわばホームページリテラシー，あるいはインターネットリテラシーとでも表現すべき内容である。すなわち，筆者のこの実践は，ホームページリテラシーやインターネットリテラシーを習得するのにも役立っていることがわかったと言える。

5．ま　と　め

終わりに，このようにホームページを利用して学校や博物館の様子を知ることの意義について，デールの「経験の円錐」[2] を引用して述べてみたい。

周知のように「経験の円錐」は，図3に示したように，人間の経験を具体的なものから抽象的なものへと段階的に整理して示したものである。筆者が実践したことは，ホームページの閲覧による経験ということになるが，これをあえて「経験の円錐」にあてはめてみると，図3のようなところに位置づくものと考えられる。それはホームページが文字，図，絵，写真，動画など，表現の様式が複数から成っているからである。従って文字が多いページほど上方向に位置づくし，動画が多いほど下方向に位置づくことになるわけである。

このように，筆者の実践は，学校や博物館のホームページを経験の一つの手段として活かすことであるともいえる。このように考えると，今公開されている多くのホームページ（学校・博物館のホームページ以外のも含めて）も，単に見るだけではなく，もっと有効に活用できるのではないかと，またそうあるためには，どんな情報の掲載が必要であるかも検討する必要があると筆者は考えるしだいである。

本研究は，松下視聴覚教育研究財団・平成11年度研究調査助成「高等教育における新しいメディ

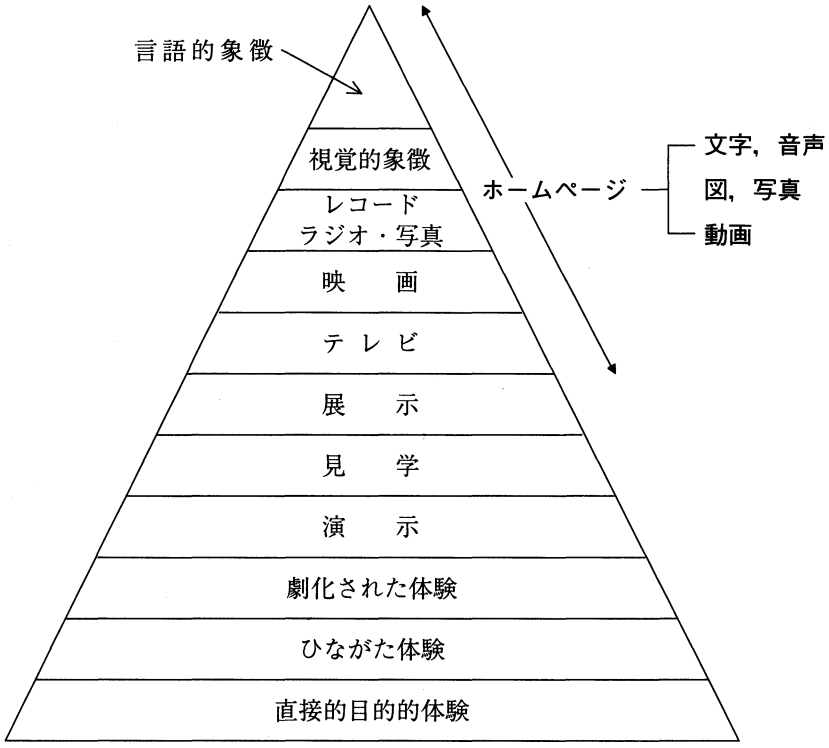


図3　「経験の円錐」とホームページの関連

ア利用研究『インターネットやビデオ会議などを活用した大学ゼミナールの共同研究』」の一環として行ったものである。このことを記して同財団に謝意を表す。また上述の共同研究を共に行っている，関西大学江澤義典教授，香川大学山崎敏範教授，及び大阪教育大学越桐國雄教授には有益な助言をいただいた。三氏に感謝します。

（注1）このページの作成には，大阪教育大学理科教育講座越桐國雄氏の作成された次のホームページを利用した。インターネットと教育：http：//www.osaka－kyoiku.ac.jp/educ/

（注2）このページの作成には，次のホームページを利用した。

文部省，国立の博物館・美術館に行けるページ：http://www.monbu.go.jp/jmlink.html#HAKU

博物館の博物館 :http://candy.hus.osaka-u.ac.jp/esthome/matusita/Museum/souken.html

鹿児島県歴史資料センター「黎明館」：http://reimeikan.pref.kagoshima.jp/

【参考文献】

1)　市川尚・鈴木克明：日本における小・中・高等学校WWWホームページの調査研究－黎明期における実態の把握と発信内容の分析－，日本教育工学会論文誌，Vol．22，No．3，1998年12月，pp.153-165

2)　たとえば，西本三十二訳：デールの視聴覚教育，日本放送教育協会，1957年7月，pp.33-39